

ふつうの人の中に、
社会を変える力がある。

自分ごと化会議

これまでの事業仕分けや住民協議会をさらに広く全国に展開するために、「自分ごと化会議」というプロジェクトをスタートします。

内容や方法はこれまでの住民協議会と同じです。無作為に選ばれた住民を中心に、行政職員、研究者、学生など、多様な顔ぶれで、医療や子育てなど日常的なテーマについて議論します。

そんな議論を通して参加者各自が地域のあり方や、日本の社会はこれで良いのか、政治はこれで良いのかなどを考えるようになります。それを、全国各地で重ねることが民意になり、社会を変える大きな力になるのです。



- ☑ 政治・行政が現場のリアリティを回復
- ☑ 住民の政治リテラシーの向上

「自分ごと化会議」に関するお問い合わせは

一般社団法人 構想日本 (担当: 伊藤 / 田中)
電話: 03-5275-5607 E-mail: info@kosenippon.org

構想日本のメールマガジン

✓ 発行数 **804**
✓ 執筆者数 **480**

月間読者数 **1万5000名**

チェックおもしろい!



(2017年4月現在)

最近のJIフォーラム

1/23(月)
第232回 「ギャンブル」を考えてみよう
ゲスト 木曾 崇 (国際カジノ研究所 所長)
玄 秀盛 (公益社団法人日本駆け込み寺 代表理事)
新里 宏二 (弁護士)
コーディネーター 加藤 秀樹 (構想日本代表)

2/23(木)
第233回 「島のくらしから考える」
ゲスト 伊藤 光 (新潟県 佐渡市 副市長)
門 康彦 (兵庫県 淡路市長)
片桐 幸雄 (島研究家)
田中 敦詞 (北海道 奥尻町副町長)
平野 秀樹 (学校法人 青森山田学園 本部長)
コーディネーター 加藤 秀樹 (構想日本代表)

3/22(水)
第234回 「原発」を通して
私たちの生き方、社会を考え直す
ゲスト 神里 達博 (千葉大学 教授)
齊藤 誠 (一橋大学 大学院経済学研究科教授)
鈴木 達治郎 (長崎大学 核兵器廃絶研究センター長)
コーディネーター 加藤 秀樹 (構想日本代表)

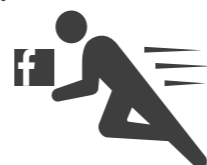
20年続けてきたJIフォーラム

- ✓ 実施回数 **234** 回
- ✓ ゲスト数 **1200** 名
- ✓ 参加者累計 **2万7000** 名

(2017年4月現在)

Find us on **FACEBOOK**
<https://www.facebook.com/kosenippon/>

構想日本の活動をいち早くお届け!



フォロー **4433**

(2017年4月現在)

構想日本
www.kosenippon.org

JIニュースは
48
回目の発行!



2017.07
特別号

発行: 一般社団法人構想日本
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-9-2
エスパリエ平河町3F
電話: 03-5275-5607
FAX: 03-5275-5617

- 夢見し、構想し、奔走した20年間 -

現場のリアリティと政治・行政の溝を埋める役割を担っていきます!

構想日本は1997年4月9日にスタートしました。それから20年間、スタッフの数は10名前後の小さな団体ですが、おかげさまで次ページのような実績を積み上げることができました。日本は非営利の団体(NPO)が継続して活動するのは難しい国ですし、その活動内容が政策シンクタンクとなるとあまり例を見ません。これだけの活動ができたのは、会員はじめ様々な形で活動を支えていただいた皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

構想日本の活動は大きく二つに分けられます。一つは政策提言です。それを言いつばなしではなく、メディアや政党に働きかけるなど、実現するまで様々な活動を続けます。そうやって実現した提言がこれまでに46になりました。

もう一つは地域活動です。これは、事業仕分けや住民協議会などを通して、住民の政治・行政参加を進めようというものです。これによって現場の声、現場のリアリティを政治・行政の中に入れると同時に、ともすれば「他人ごと」になりがちな政治・行政を住民、国民が「自分ごと」と考えるようになります。また、地域活動を通じて、私たちも政策や制度の実態を知り政策提言につなげるなど、二つの活動が相まって大きい効果が得られます。

トランプ現象が典型ですが、最近、多くの国でポピュリズムが広がっています。日本の最近の選挙の傾向も、長年にわたるバラマキ政策も同じです。構想日本の地域活動を通じて、住民、国民にとって政治や行政が「自分ごと」になれば、ポピュリズムへの抵抗力がつかます。

この効果をさらに広げ、勢いをつけるために、構想日本は20年を機に事業仕分けや住民協議会などをひっきりめた「自分ごと化会議」を全国に展開していく予定です。どんな会議かは7月のJIフォーラムをご覧ください。ただければお分かりいただけると思います。

構想日本は、こうやって現場から日本の政治・行政を変える活動を加速してまいります。これからも構想日本の活動に対するご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

代表 加藤 秀樹

みなさまに支えられて、走り続けた 20 年！！

私たちは“奔走”日本！！

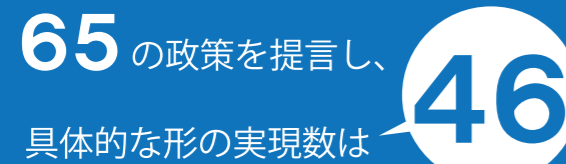
20th track record

数字で見る 構想日本の軌跡



スタッフの数は一貫して 10 名前後。今では、自治体からの出向者含めて若く優秀なスタッフが中心です。行政の現場を体験することで、問題の本質を押さえて動ける組織になったのだと思います。

みなさんと作り上げた実績



20 年間で 65 の政策提言を行ってきました。法改正や閣議決定に繋がったものが 46 あります。7 割の打率はナカナカと自負していますが、いかがでしょうか。

- ★ 省庁設置改正
- ★ 政府事業仕分けによる予算への反映
- ★ 公益事業法人関連 3 法制定
- ★ 毎年度の行政事業レビュー実施の閣議決定

住民が参加する事業仕分け・住民協議会




私たちはみな政治や行政に対して何かの「気持ち」は持っています。しかし、それが具体的な「声」や「民意」にはなっていません。それを創る仕組み、場を提供するのが構想日本です。政治家や公務員でなく、「ふつうの人」の「ふつうの力」を結集させると社会を変える力になるのです。その「ふつうの人」が無作為に選ばれた住民なのです。ふつうの人が話し出すと、議員や有識者よりもずっと生活感のある力強い議論になります。入り口のテーマはいろいろで、子育てでも介護でも何でもいいんです。足下の身体実感を基にした議論の積み重ねが日本の政治全体を成熟させるのです。

無作為に選ばれた住民の政治・行政参加



市役所や県庁からたまたま送られてきた 1 枚の葉書き。それが始まりです。私達が持っている政治や行政に対する漠然とした気持ち、それが他の「たまたま」の人達と話し合ううちに、進化し、面白くなり、もっと考えたくくなります。そうやって他人ごとが自分ごとになり、社会のことが、自分のことになります。それが「民意」、それが民主主義なのです。

取り組み続けている事業仕分け



構想日本の活動の一つに、地域活動があります。無作為に選ばれた住民中心に、町の事業の仕分けをしたり、ゴミ問題や医療など住民の関心が高い問題を議論してもらうのです。

